

厚生文教委員会

11/16 教育委員との意見交換会

厚生文教委員会では、町の教育の方向性を審議する教育委員の皆さんとの意見交換を通じて町の教育をさらに充実させるために、次の3点をテーマに話し合いを行いました。

- ①「フューチャースクール」から「学びのテーマパーク」に変わったことについて
(理由) 町の学力向上策として有効か。
- ②「ふるさと学習みずほ学」について
(理由) とても良い授業。今後の展開は。
- ③「自己肯定感」の考え方について
(理由) 30年度に実施された都の調査の「自分のことを大切な存在だと感じていますか」という質問で「感じている」という回答が、町は都の平均を大きく下回っていた。

【教育委員の皆さんからの主な意見】 家庭教育はとても大事

①自分から課題を見つけて取り組んでほしい

町子どもたちは家庭学習の時間が短いので、「学びのテーマパーク」を通じて自らテーマを見つけて学ぶ姿勢を身に付けてほしい。

②故郷を愛する子どもを育みたい

「ふるさと学習みずほ学」を通じて町の歴史や文化を学び、故郷を愛する心を育ててほしいと願っている。大人も参加できると良い。

③子ども自身を認めてあげて（自己有用感）

まずは家庭で、その子が今できることやその子自身を認めてあげることが大事。そして、「誰かの役に立っている」という思いを増やすことで良い方向へ進められる。その点で、家庭教育はとても大事だと感じる。子どもの健全育成のための家庭教育の在り方などを知ってほしい。



教育委員の皆さん（左から関谷教育長職務代理人、滝澤委員、村上委員、中野委員）



委員会では、出された意見を参考に具体的な政策提案に向けて協議を行っていきます。

（ミニ解説）

- 1 学びのテーマパークとは…学力向上事業としてフューチャースクールに変わり、国の補助金を活用して始まった事業。町内在住のコーディネーターの方を中心に、地域の方や大学生が各校で児童・生徒の学習支援をする。
- 2 自己有用感とは…自分に存在意義を持ち、人の役に立ちたいと思う気持ち。

活動報告

出席者：森 亘、小川 龍美、小山 典男、村山 正利、山崎 栄、香取 幸子

管内視察

「学びのテーマパーク」を現地視察

12月8日に瑞穂第一小学校、12月14日に瑞穂第二中学校で実施された学びのテーマパークの取り組み状況を視察しました。

第一小学校は4～6年生が対象で、児童が個々に、漢字練習や算数などを集中して行っていました。また、タブレットを活用して調べている児童も数人見掛けました。学習支援者の方々は、児童からの問い掛けに丁寧に答えていました。校長先生から、「ノート作りが上手になりました。学び合いで学習させたいがコロナの関係でできないのが残念です」との話がありました。

第二中学校では、今年から全学年を対象に、全生徒に参加するように促しているとのことでした。自習プリントや宿題など、多くの生徒が意欲的に取り組んでいました。校長先生からは、「7時間目の授業という意識を持つ生徒が多い。自分から進んで学ぶという意識の定着を目指して、コーディネーターや学習支援者の皆さんが熱心に取り組んでいるし、教員も協力している」との話がありました。

現場を確認し、取り組み状況を把握できたことは、今後の委員会活動に大変参考になりました。



賛否の分かれた陳情

○…賛成 ×…反対 欠…欠席
※議長は、採決には加わりません。

件名	自民誠							自民新			公明		改革	共産	結果	
	森	榎本	村上	古宮	山崎	下澤	香取	石川	小山	村山	小川	下野	原	近藤		大坪
3陳情第11号 核兵器禁止条約の署名、批准に関する陳情 pick up 3	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	不採択
3陳情第12号 核兵器禁止条約の署名・批准を求める陳情 pick up 3	×	×	×	-	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	
3陳情第14号 パートナーシップ制度・ファミリーシップ制度に関する陳情 pick up 4	×	×	×	-	×	×	×	×	×	○	○	○	○	欠	○	

自民誠：自民誠和会 自民新：自民新公会 公明：公明党 改革：改革みずほの会 共産：日本共産党